

令和7年度版「学力向上ポートフォリオ(学校版)」【大砂土中学校】

⑥	次年度への課題と学力向上策
知識・技能	次年度に向けて (3月)
思考・判断・表現	年度末評価 (2月)

①	今年度の課題と学力向上策	
	学習上・指導上の課題	学力向上策【実施時期・頻度】
知識・技能	<学習上の課題> 基礎的・基本的な知識・技能の習得状況について偏りがみられる。 <指導上の課題> 基礎的・基本的な知識・技能について、反復練習をする時間を十分に確保できていない。	⇒ 「スタディサプ」や「ドリルパーク」等を活用し、基礎的・基本的な内容の反復・習熟に取り組む。【火・水・金の朝に実施】振り返りシートを活用し、獲得した知識や技能を次の学習に活かせる場面を設定する。【単元ごとに実施】
思考・判断・表現	<学習上の課題> 学習内容や自分の考えを文章化することについて課題がみられる。 <指導上の課題> 学習内容や自分の考えを文章化する指導の時間を十分に確保できていない。	⇒ 「さいたま市『アクティブ・ラーニング』型授業」を意識し、自力、協働、練り上げのプロセスを学習活動に位置付ける。【学習内容ごとに実施】振り返りシートを活用し、授業で学習したことや感想などを記述する場面を設定する。【単元ごとに実施】

⑤	評価(※)	学力向上策の実施状況
知識・技能	① 結果分析(管理職・学年主任等) ② 詳細分析(学年・教科担当) ③ 分析共有(児童生徒の実態把握) 職員会議・校内研修等	結果提供(2月)
思考・判断・表現		

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(おおむね達成) C 6割未満(あと一歩)

②	全国学力・学習状況調査結果について(分析・考察)
知識・技能	R7年度全国学力・学習状況調査の「知識・技能」において、R6年度の自校の結果と比較し、国語-10pt、数学-16ptであった。国語では全体として埼玉県や全国の平均正答率をやや上回る結果となった。数学、理科では全体として埼玉県や全国の平均正答率を下回る結果となった。数学では、既習事項を基に、さらに深く考える問題に課題がみられた。理科では「分解に関する身近な事象を問うことで、これまでに学習した理科の知識及び技能を基に、化学変化の分解の知識が概念として身に付いているかどうかをみる問題」に課題がみられた。基礎的・基本的な内容の反復・習熟が学校全体の課題といえる。
思考・判断・表現	R7年度全国学力・学習状況調査の「思考・判断・表現」において、R6年度の自校の結果と比較し、国語-10pt、数学-6ptであった。国語では「読み手の立場に立って、表記を確かめて、文章を整えることができるかどうかをみる問題」、数学では「事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明することができるかどうかをみる問題」、理科では「知識および技能を関連付けて、それぞれの気体の密度の大小関係を分析して解釈できるかどうかをみる問題」に課題がみられた。

- ① 結果分析(管理職・学年主任等)
② 詳細分析(学年・教科担当)

④	さいたま市学習状況調査結果について(分析・考察)
知識・技能	
思考・判断・表現	

③	中間期報告		中間期見直し
	評価(※)	学力向上策の実施状況	学力向上策【実施時期・頻度】
知識・技能	B	基礎的・基本的な内容の反復に取り組むことはできている。振り返りシートを活用し、獲得した知識や技能を次の学習に活かせる場面を設定することができる。	変更なし
思考・判断・表現	B	「大砂土中アクティブ・ラーニングモデル」として、自力、協働、練り上げ等の学習プロセスに応じた学習活動を各教科で実践している。振り返りシートは各教科で実施しており、学習したことや感想などを文章で記述することが出来ている。	変更なし

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(おおむね達成) C 6割未満(あと一歩)